

## 『第11回医学科同窓会主催学生向け講演会』の報告

医学科同窓会副会長 琉大附属病院 救急部 特命講師 玉城 佑一郎 (12期生)

## 講演1 「医系技官」という仕事

知念 希和氏 (20期)  
島根県健康福祉部健康推進課長

## 略 歴

- H18 琉大医学科卒業 (20期)
- H18 県立北部病院 初期・後期研修医
- H22 厚労省医政局
- H24 文科省スポーツ・青少年局  
学校健康教育課 学校保健対策専門官
- H26 現職

## 講演2 「救急医療に待ったなし！」

亀山 大介氏 (20期)  
厚労省医政局地域医療計画課  
救急・周産期医療等対策室 救急医療対策専門官

## 略 歴

- H18 琉大医学科卒業 (20期)
- H18 RyuMIC 研修医  
(琉大病院、県立宮古病院)
- H20 浦添総合病院救命救急センター  
後期研修医
- H23 日医大千葉北総病院  
救命救急センター助教
- H26 厚生労働省出向 大臣官房厚生科学課  
健康危機管理・災害対策室 課長補佐
- H27 現職

去る平成27年5月15日に「医学科同窓会主催第11回 学生向け講演会」が開催されました。これまでは臨床や研究など各方面で活躍されている卒業生に講演をしていただいていたのですが、今年は行政側、つまり厚生労働省で勤務する医系技官の仕事についてお話を伺うことができました。

その講演をしていただいたのは、お二人の先生で、さらに偶然なのか二人とも20期卒で医系技官へ至る経過も異なっており、講演終了後も学生から活発な質問があり、それらを参考に学生も将来の選択肢の一つが加わった内容であったと思います。

先に知念先生の講演から始まり、亀山先生の笑いあるユーモア溢れた講演へと続き、医系技官の

公衆衛生を中心とした仕事内容や医系技官に至る経緯、そして現在の各個人の仕事内容など私たちが普段の学業や臨床では知り得ない興味深い講演をしていただきました。それらを紹介していききたいと思います。

## 知念 希和氏



## ＜医系技官の仕事＞

行政と臨床との橋渡しの役割をしていく、つまり日本国民の健康をどう確保するのか、例えば患者さんに提供する医療の枠組み作成、地域において健康な生活を維持するためにはどうしていったらいいのか等の公衆衛生を含む様々な舞台において仕事をしている。

研修医制度や専門医委制度に関わる医政局や国際保健・国際協力、国内感染症対策に関わる健康局等々の様々な担当部局があり、それぞれに担当医系技官が配属され多くの仕組みを作っている。

医系技官には医師以外にも歯科医師、獣医師、看護師、薬剤師等も所属しており、例えば獣医師の多くは農林水産省で検疫に関わったりしており、厚生労働省で検疫を担当している獣医師もいる。それぞれの技術職が医系技官と力を合わせて問題に対応している。また母子保健は文部科学省や少子化対策をしている内閣府など各部局が一緒になって政策を担っている。

介護保険が必要な高齢者になっても元気に過ごせる様な仕組み作りは老健局に所属し、もしもの時の安心のために危機管理が必要な災害が起こった時に健康医療の確保が出てくると優先的な課題として対応していったりしている。

## ＜具体的な内容＞

ダイナミックな現場であり、法律の改正を含む新しい方針が出される日本の医療現場があり、非常に精度の高い情報を収集しつつ、その元を作成している。